

研究課題名	ADPKD（常染色体優性多発性嚢胞腎）におけるSGLT2阻害薬の影響の検討 -既存情報を用いた後方視的観察研究-
研究の意義・目的	常染色体優性多発性嚢胞腎は慢性腎臓病の原因の一つです。さまざまな原因で起こる慢性腎臓病に対して、SGLT2阻害薬は腎機能の低下効果を示すことが明らかとなり、常染色体優性多発性嚢胞腎の方にも保険適応で使用可能となっております。しかし、常染色体優性多発性嚢胞腎ではSGLT2阻害薬で、腎機能と腎容積に変化が生じるかの詳細は分かっていません。そこで本研究では、実際にフォシーガ10mgというSGLT2阻害薬を内服された常染色体優性多発性嚢胞腎の方を対象に、腎機能と腎容積の変化を検討することで、この疾患におけるSGLT2阻害薬の効果を検証いたします。トルバブタン（商品名：サムスカ）以外に確たる治療薬がない状況において、新しい治療薬となる可能性があり、意義があると考えます。
研究を行う期間	研究期間：研究機関の長の研究実施許可日～2025年12月31日を予定しております。
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2022年8月31日までに大阪公立大学医学部附属病院の腎臓内科で、常染色体優性多発性嚢胞腎のため通院された方の中、下記の方が対象となります。 1) 常染色体優性多発性嚢胞腎（ADPKD）の方 2) 20歳以上の方 3) 2022年8月31日までにフォシーガ10mg（SGLT2阻害薬）を内服された方 4) フォシーガ10mg投与前後に血液検査と画像検査が2度行われた方
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させていただきます。 基本情報（年齢、性別、体重、慎重、血圧、内服内容、依存症、家族歴など） 血液検査（クレアチニン、eGFRなど腎機能に関わる項目など、普段の慢性腎臓病診療で測定した項目） 尿検査（蛋白尿など） CT・MRI検査（腎容積） 血液（特にeGFR）・尿検査そして腎容積は、フォシーガ内服の前と後でその変化率がどれくらいであったかを計算し、比較いたします。
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院腎臓内科のみで行い、他の機関に試情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院腎臓内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学 研究責任者：仲谷慎也
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科代謝内分泌病態内科学 （担当者氏名）仲谷慎也 電話番号：(06) 6645-2312 email：nakatani-s@omu.ac.jp